

第 12 回目

2012 年 9 月 7 日 (金曜日)

18:00 ~ 19:00

元安橋東詰からスタートし本通り、金座街を往復します。毎週金曜に歩きます。

飛び入り歓迎
槍が降ったら中止します

広島 2 人デモ

雨天
決行

http://www.inaco.co.jp/hiroshima_2_demo/

いてもたってもいられなくなった仕事仲間と恥も外聞も捨てて仕事の合間にたった 2 人でも歩く。それが 2 人デモです。黙っていたら社会人としてだけでなく、企業人としても恥。

野田首相！あなたは恥を知るノダ！

調査・文責：哲野イサク

チラシ作成：網野沙羅

連絡先：sarah@inaco.co.jp



作られた「電力不足」のシナリオ

9 月に入りました。政府野田政権の節電期間もそろそろ終わりです。NHK、朝日新聞をはじめ、大手マスコミは、なんと 2010 年と比較して関電管内の節電効果は「11%以上だった」、「予想外の節電効果だった」と政府・関電の宣伝をそのまま発表しています。バカなことをいってはいけません。すでに昨年 8 月関電管内のピーク時最大需要は 2784 万 kW だったのです。今年のピーク時最大需要 2681 万 kW(8 月 3 日)と比べてみても、精々 3-4% の節電効果でしょう。

関西広域連合も政府・関電に手を貸しました。結局彼らも原発なしでは供給力は 2542 万 kW (火力 1923、水力 254、揚水 239、融通 110、その他 16) しかない「検証結果」をまとめたのです。(5 月 19 日・関西広域連合エネルギー検討会電力需給等検討プロジェクトチーム公表資料による) 実際には、裏面の表を見ておわかりのように、自社火力発電、水力発電・揚水発電を合計して平均 2014 万 kW を供給しました。それでも発電能力からすると 20%以上もゆとりがありました。それに加えて平均 686 万 kW の「他社受電」を関電は受け取っていたのです。

(裏面に続く)

関電

黙っていたら “YES” と同じ

「国民生活を守るため」はウソ
国民の命も綺麗な空気も水も土も
どうでもいいノダ政権

私たちは経済界の奴隷ではない
関電・経済界のための
大飯原発稼働は
即撤回させましょう

もし「電力不足」が理由なら
真夏のピーク使用時過ぎて
なぜ大飯原発は止まらない？

原発稼働は関電・
経済界の利益と都合

野田政権・政府・関電はなぜ「電力不足」のウソをついてまで大飯原発稼働を強行したかったのか？「電力不足」が理由ではなかった、「国民生活を守るため」ではなかったことは明らか

です。「電力使用のピーク」が過ぎてても大飯原発は止まりません。

関電は 3 つの原発に合計 11 基の発電用原子炉を持っています。いずれは廃炉にしなければなりません、この廃炉費用として 4347 億円しか積み立てていません。原発廃炉費用は 1 基約 1000 億円といわれています。(これも過小評価だと思います) もしこの 11 基が今すぐ廃炉となったら関電は 1 兆 1000 億円の資金が必要となります。

(以下裏面に続く)

関西電力 株主構成 (2012 年 3 月 31 日現在)

株主区分	株主数	比率
政府・地方公共団体	13	12.99%
金融機関	208	28.93%
金融投資家	51	2.04%
他法人	1,647	5.10%
外国法人	476	13.09%
個人	318,007	37.86%

1. 個人のうち約 4486 万株が関電自己株式である。総発行株式の 4.80% に相当する。

関西電力 主な株主 (2012 年 3 月 31 日現在)

株主名	持株比率
大阪市	8.92%
関電自己株	4.80%
日本生命	4.57%
日本トラスティ・サービス信託	3.79%
神戸市	2.91%
日本マスタートラスト信託	2.32%
関電持株会	2.04%
SSBT	1.80%
みずほ銀	1.38%
三井住友銀	1.19%
三菱東京 UFJ	1.01%
上位計	34.73%

1. 日本トラスティ・サービス信託銀行は信託銀行。三井住友 G の事実上の子会社。
2. 日本マスタートラスト信託銀行は事実上三菱 UFJ グループの子会社。日本生命が資本参加している。
3. SSBT 0D05 オムニバス・アカウントトリイティは中国系の投資ファンド。香港上海銀行が代理人

作られた「電力不足」のシナリオ

この「他社受電」のうち他電力会社からの融通電力は平均 153 万 kW に過ぎません。結局関電管内には独立系電気事業者を中心として約 530 万 kW 以上の電力供給能力があったのです。

政府・関電・関西広域連合やその他の「エネルギー専門家」は、すでに関電管内のピーク時需要は精々 2700 万 kW 程度だという事実、あるいは**関電管内には「独立系電気事業者」という巨大な「電力供給者」が存在する事実**を知らなかったのでしょうか？ そんなはずはありません。彼らこそこの事実をよく知っていました。**知っていて「電力不足」のウソのシナリオをでっちあげた**のでした。そして野田首相は「国民生活」を守るためと称して大飯原発再稼働を「政治決断」したのでした。しかしそれは、実際には関電・経済界の利益を守るためでした。

関西電力 ピーク時電力供給量と使用実績 (2012年8月2日から9月5日-平常日のみ)

単位はすべて万kW
「最高気温」は関電発表のその日の最高気温

今夏最高			発電能力		非原子力計	原子力	他社受電			
2012年			ピーク時供給実績	ピーク時使用実績	供給実績	一定出力	受電実績			
日付	曜日	最高気温					うち他電力会社からの融通電力	うち管内独立系電気事業者からの購入受電	供給実績全体に占める独立事業者率	
9月5日	水	33.3℃	2,977	2,482	2,049	236	692	147	545	18.3%
9月4日	火	32.5℃	2,859	2,392	1,919	236	703	182	521	18.2%
9月3日	月	32.3℃	2,907	2,353	1,973	236	697	182	515	17.7%
8月31日	金	34.8℃	2,977	2,582	2,085	236	675	159	516	17.3%
8月30日	木	34.3℃	2,848	2,579	1,953	236	658	159	499	17.5%
8月29日	水	31.3℃	2,896	2,554	1,997	236	664	159	505	17.4%
8月28日	火	34.6℃	2,970	2,554	2,038	236	695	159	536	18.0%
8月27日	月	34.2℃	2,855	2,554	1,938	236	680	172	508	17.8%
8月24日	金	32.5℃	3,017	2,505	2,083	236	697	147	550	18.2%
8月23日	木	34.5℃	2,945	2,634	2,014	236	696	147	549	18.6%
8月22日	水	34.7℃	2,986	2,565	2,052	236	699	147	552	18.5%
8月21日	火	34.4℃	2,943	2,549	2,019	236	688	147	541	18.4%
8月20日	月	34.8℃	2,984	2,492	2,034	236	714	160	554	18.6%
8月17日	金	36.5℃	2,741	2,518	1,821	236	683	128	555	20.2%
8月10日	金	33.8℃	2,890	2,477	1,987	236	668	141	527	18.2%
8月9日	木	34.2℃	2,847	2,434	1,947	236	664	142	522	18.3%
8月8日	水	34.6℃	3,002	2,410	2,099	236	666	142	524	17.5%
8月7日	火	34.4℃	3,026	2,528	2,097	236	693	142	551	18.2%
8月6日	月	36.0℃	3,023	2,625	2,129	236	659	142	517	17.1%
8月3日	金	36.7℃	2,999	2,681	2,043	236	719	160	559	18.6%
8月2日	木	36.0℃	2,859	2,650	2,026	236	696	140	556	19.4%
ピーク時平均 (量 / 率)			2,931	2,529	2,014	236	686	153	533	18.2%

1. 非原子力計は火力発電・水力発電・揚水発電の合計。
2. 他社受電は、IPP (独立発電事業者)、自家発電設備などからの購入及び他電力会社からの融通電力。
3. 常時融通電力を供給したのは中部電力、中国電力、北陸電力の3社のみ。
4. 厳密には太陽光発電による供給 1 万 kW があるが、この表では無視している。
5. 関電管内の独立系電気事業者からの購入はピーク時供給力の平均 2 割弱を占めており原子力の倍以上。
6. 関電のピーク時供給能力は自社発電分 2 7 4 7 万 kW に他社受電平均 6 8 6 万 kW を加え 3 4 3 3 万 kW あった。
7. 資料出典は関電有価証券報告書平成 2 3 年及び 2 4 年、関電「でんき予報」

原発再稼働は関電・経済界の利益と都合

(表面から続き) そればかりではありません。関電は原発施設、核燃料と使用済み核燃料に対して約 9000 億円の資産計上をしています。これら資産はたちまちゼロ査定です。さらに難問は使用済み核燃料の安全化費用です。使用済み核燃料は恒久的な保管場所がまだ決まっています。おそらくこれにかかる費用は天文学的数字にのぼるでしょう。(なんでこんなバカなことをしてしまったのか。全く経済合理性がありません)

一方関電の**純資産**は連結ベースで**1兆5300億円**しかありません。原発が廃炉と決まれば、**関電が債務超過に陥ることは明らか**でしょう。関電が債務超過に陥れば大手金融機関・経済界も無事では済みません。関電の総資産は**7兆5200億円**もありますが、その半分以上の**3兆8500億円が有利子負債**

です。関電に融資をしているメガバンクや日本生命などといった機関投資家はほぼ回収不可能でしょう。株主もよく見れば、こうした**金融機関や機関投資家が主要株主**です。最近国外法人も増えました。**多くは投資ファンド**です。**関電を潰さないためには、原発を再稼働するしかない**のです。しかし**私たちは経済界が利益を吸い上げるための「経済奴隷」**なのではありません。

関西電力 長期借入金 主な借入先 (2012年3月31日現在)

単位は億円。

日本政策投資銀行	3,070
日本生命保険	1,874
みずほコーポレート銀行	1,723
三井住友銀行	1,300
三菱東京UFJ銀行	1,300
その他	5,573
合計	14,840

関西電力 純資産と有利子負債

いずれも該当年度3月31日現在。単位は億円。連結ベース。

	純資産	総資産	有利子負債	連結売上	うち電気事業売上
2010年	17,894	71,166	33,214	26,066	22,936
2011年	18,324	73,101	33,797	27,698	24,199
2012年	15,298	75,213	38,495	28,114	24,299

1. 有利子負債は社債、長期借入金、1年以内に期限到来の固定負債、短期借入金の4項目の合計。関電有価証券報告書平成23年及び24年による。
2. 純資産 = 総資産 - 総負債

関西電力 原発関連資産

いずれも該当年度3月31日現在。単位は億円。

	原子力発電設備	装荷核燃料	加工中等核燃料	合計
2010年	3,341	833	4,158	8,332
2011年	3,749	963	4,148	8,860
2012年	3,630	953	4,324	8,907

1. 資産除去債務として原子力発電施設解体引当金その他で4347億円がある。
2. 原子力発電設備は**89%減価償却を終えている**。(有証 24 p110)